天声人語

5年前の梅雨どき、さいたま市に住む女性(78)は、東京・銀座で女性たちのデモを見た。集団的自衛権の行使容認に反対する人々だった。その時の思いを俳句に詠む。〈梅雨空に「九条守れ」の女性デモ〉▼地元の公民館の句会で秀句に選ばれた。従来、秀句は公民館だよりで紹介されてきたのに、公民館はこの句に限って掲載を拒む。「公平中立の立場から好ましくない」という理由だった。納得がいかず、市を相手に裁判を起こした▼「思想・信条を理由にした不公正な取り扱いだった」と地裁、高裁が認める。昨年末、最高裁で確定し、句は公民館だよりの今年2月号に掲載された。「子どものころ、空襲警報が鳴って防空壕に駆け込んだ記憶は鮮明です。普通の主婦が、9条は大事だという当たり前の気持ちを小さな句会で詠んだだけ。それが不掲載になるいまの世の中が心配です」▼句歴は10年に及ぶが、〈梅雨空に〉は句としてはしっくり来なかったという。裁判で幾度も取り上げられ、有名になっていくのが恥ずかしかったと話す▼一連の経緯をふりかえると、行政側の事なかれ主義が浮かび上がる。憲法を守る動きとはかかわりを持たぬ方がいまは得策……。問われたのは、行政の現場に広まるそんな見当違いの「憲法アレルギー」だった▼憶せずに声をあげ、70代で初めて司法の場に立つ。女性の奮闘に励まされた方も多いのではないか。きょうは憲法記念日。〈梅雨空に〉は、憲法史に長く刻まれるべき一句だろう。

2019・5・3

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。